

# 大多喜の地元力発見／序破急

## 「序」外廻橋(とめぐりばし)

千葉県大多喜町は、小江戸と称し城下町の街並みを観光地として

いる。今回は、新たな「地元力」について、筆者は大多喜町にいたる。序・破・急として3回に分ける。夷隅川にかかる道路用の鉄橋(とめぐりばし)という。序では地元力が地元力とならない例、「破」では一転して文化的なレガシーとなる町営図書館天賞文庫、「急」では未来へ挑戦する芸術のカタチについて。

以下、「序」について記させていたたく。筆者は、大多喜町を通る「いすみ鉄道」の存続、今では

えは鉄道持続可能性を応援するた

めに、「房総横断鉄道沿線のエコマニューシム環境整備」という国土交通省の新たな公による「ミニ

ニティ創生支援モデル事業を行っ

たことがある(2008〜10年)。そ

こでは、大多喜町の観光街歩き

のための「エコマニューシムと

は、「住民による観光」コンシユ

ルシユの育成」を以て「沿線酒造

による地元ブランドの地酒」鐵の

道の商品化」脱炭素の関連で

は電気自動車の試乗会などを行っ

た(<http://www.kofuza.com/>)「石橋山の戦い」について、戦で負

け、この房総に逃げ

てきたんだってよ。

あんで、房総に逃げ

てきたかっという馬から降りてき

てきたかっという馬から降りてき

てきたかっという馬から降りてき

てきたかっという馬から降りてき

てきたかっという馬から降りてき

てきたかっという馬から降りてき

てきたかっという馬から降りてき

てきたかっという馬から降りてき

てきたかっという馬から降りてき

てきたかっという馬から降りてき

てきたかっという馬から降りてき

てきたかっという馬から降りてき

てきたかっという馬から降りてき

てきたかっという馬から降りてき

すみ市内を通り太平洋に注ぐ。同

様の赤い鉄橋は、ほかに3か所

はあり。繰り返しになるが、城下

町の入口には赤い鉄橋は似合わな

いし、現状は塗装もはがれ無残な

はと、次の提案をした。「歴史と

合致したアートとしての

橋にするため、作家や地

元の高橋生などに描いて

いたたく。・・・これが

実現できれば、新しい看

板として、地元力発見の

名所になると期待でき

る。

なお、この橋の付近の

地名には、源頼朝に由来

する物語がある。以下に

引用し結ひとしたい。



外廻橋

1950年山形生まれ。東京都立大院卒。元千葉大学院工学研究科准教授(金属疲労専攻)。金属疲労の研究のほか、他分野のテーマの研究開発に努めるとともに日本各地の地域おこし活動に従事する。ローカル鉄道と地元の酒蔵のコラボで地域再生を図る地酒「鐵の道」の製造・販売を企画(すでに10件を超える銘柄を送り出している。一般社団法人「洗楓座」代表。全国ふるさと大使連絡会議)理事

## 『頼朝と船子』(外廻橋編)

(一)

むかしのことで、うそかほんとかよくわかんねけんが、こんな話があったとき。今の中学校のあたりに、「船子」というつべや。あんな

(二)

な。そんな頃、今のいすみ市の布施に、隅川をジューッと見ていたってよ。なあ、上総介広常という、いっぺ

(三)

家来をもったお武家さんが住んでいたんだってよ。そつでもって、

頼朝は上総介広常に「助けてくれ

るように」頼みに来たんだって。

頼朝はしばらく船をながめていたってよ。激しかった戦のことや

死んで行った家来のことだん思

出しながら、戦のねえ、こんな景

このあたりに『船子』というよう色のような世の中を、夢にでも見

ていたんだつべよ。

船子のはよ、船を漕ぐ船頭の

おじま

(斉藤弥四郎著) = <https://www.boso-legend.com/story/0011/>

# 地元力発見!

佐藤建吉 「洗楓座」代表

33